

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成27年 10月～12月実績

平成28年 1月～3月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 平成27年10～12月期実績及び平成28年1～3月期見通し
7. 調査時点 平成27年11月15日（日）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合から

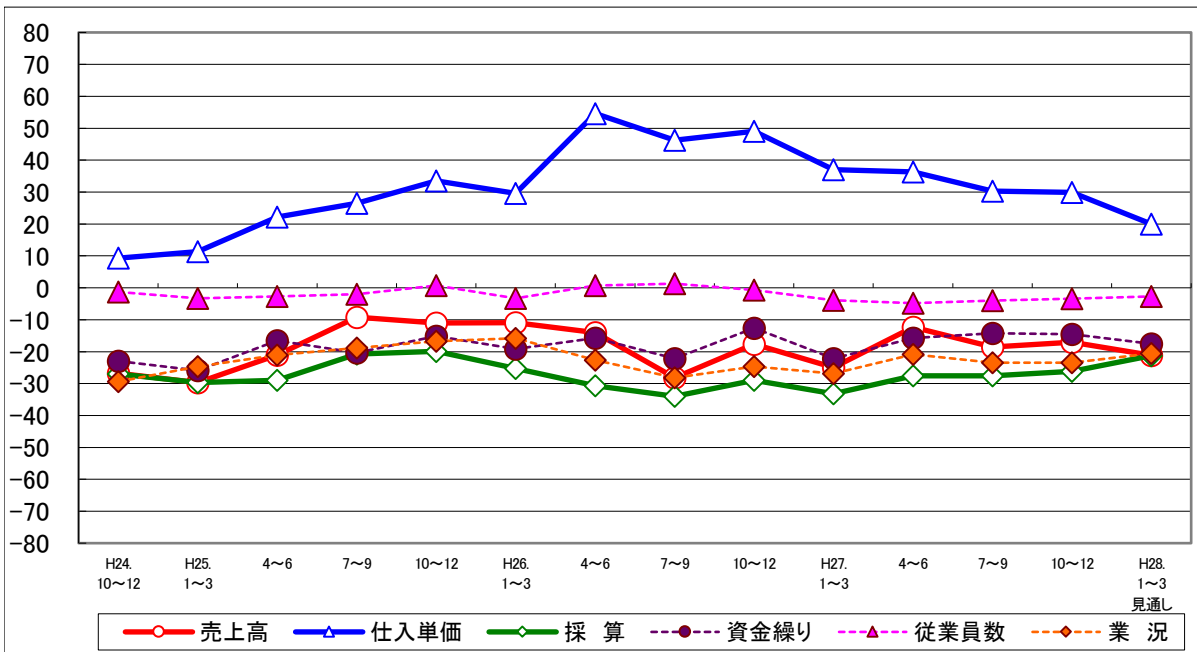
DI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

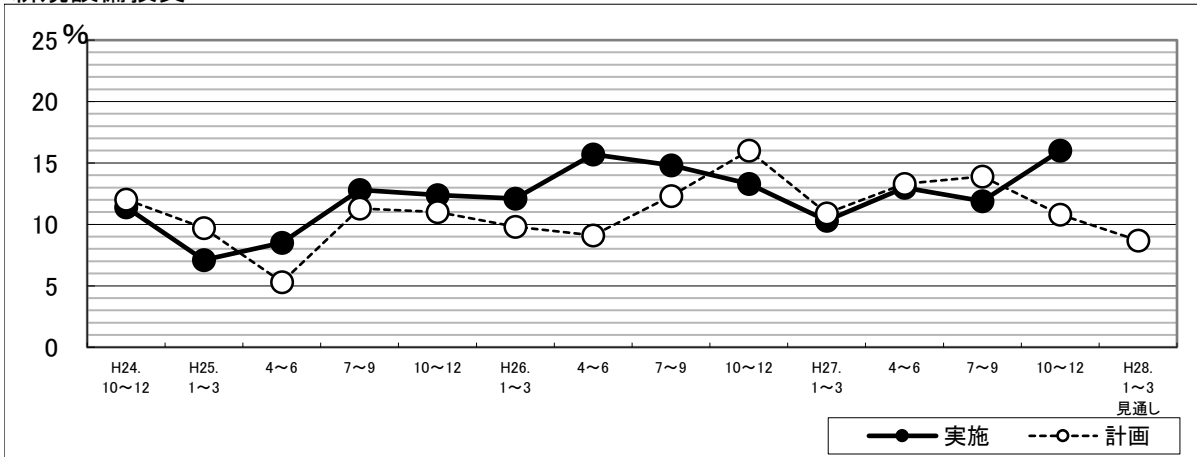
全体（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向推移（前年同期比：DI値）

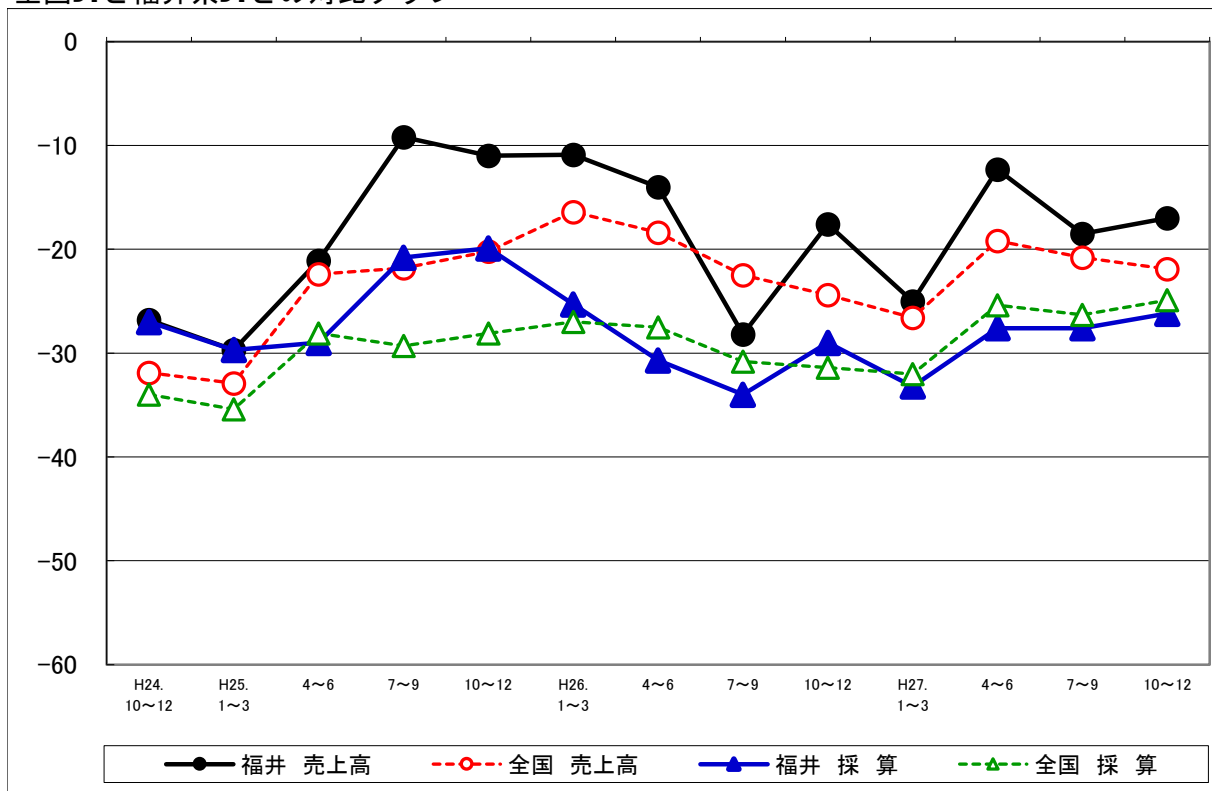
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.10~12	▲ 26.8	9.3	▲ 27.0	▲ 23.0	▲ 1.3	▲ 29.4
H25.1~3	▲ 29.7	11.3	▲ 29.7	▲ 25.9	▲ 3.3	▲ 24.7
4~6	▲ 21.1	22.2	▲ 29.0	▲ 16.5	▲ 2.7	▲ 21.1
7~9	▲ 9.2	26.5	▲ 20.8	▲ 20.3	▲ 2.0	▲ 18.8
10~12	▲ 11.0	33.5	▲ 19.9	▲ 15.1	0.7	▲ 16.7
H26.1~3	▲ 10.9	29.6	▲ 25.3	▲ 19.1	▲ 3.3	▲ 15.8
4~6	▲ 14.0	54.6	▲ 30.7	▲ 15.7	0.7	▲ 22.7
7~9	▲ 28.2	46.2	▲ 34.0	▲ 22.2	1.3	▲ 28.2
10~12	▲ 17.6	49.1	▲ 29.0	▲ 12.6	▲ 0.7	▲ 24.7
H27.1~3	▲ 25.0	37.0	▲ 33.2	▲ 22.2	▲ 3.9	▲ 26.9
4~6	▲ 12.3	36.3	▲ 27.6	▲ 15.7	▲ 4.8	▲ 20.9
7~9	▲ 18.5	30.3	▲ 27.6	▲ 14.2	▲ 4.0	▲ 23.5
10~12	▲ 17.0	29.9	▲ 26.2	▲ 14.5	▲ 3.4	▲ 23.5
H28.1~3見通し	▲ 21.2	20.0	▲ 21.3	▲ 17.5	▲ 2.7	▲ 20.5



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成27年10－12月期の福井県経済を概観すると、需要面では、給与所得環境の改善、北陸新幹線効果による観光来訪者の増加、さらには地方創生に関連した各種の政策効果の影響も加わり、大型店、CVS、ドラッグストア等の売上が堅調に推移。供給面でも企業の生産活動が、電子部品・デバイスでスマートフォン需要などに支えられ高水準の生産を維持したほか、医薬品関連の化学や機械関連も高操業を継続。繊維・眼鏡枠などの地場産業も品目、内需あるいは外需といった市場による格差は見られるものの、概ね堅調な生産を維持した。こうした中で企業の設備投資に回復感が出ているほか、企業収益の改善も進むなど、総じてみれば緩やかな回復傾向を継続した。

そのため、今期（H27年10－12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目全てが、概ね横ばいで推移。強いて言えば、売上高が前期（7-9月期）の▲18.5→今期（10-12月期）▲17.0へと1.5ポイントの改善、採算も前期▲27.6→今期▲26.2へと1.4ポイント改善したのが目立っている。その他の項目では、仕入単価（逆指数）が前期30.3→今期29.9、資金繰りが前期▲14.2→今期▲14.5、従業員数が前期▲4.0→今期▲3.4、業況が前期と同じ▲23.5となっている。

この結果から言えることとは、福井県経済は年央以降、一部を除いて、概ね横ばいで推移しているという事実であろう。また、来期（H28年1－3月期）の見通しについても、売上高と資金繰り以外、概ね改善予測となっている。

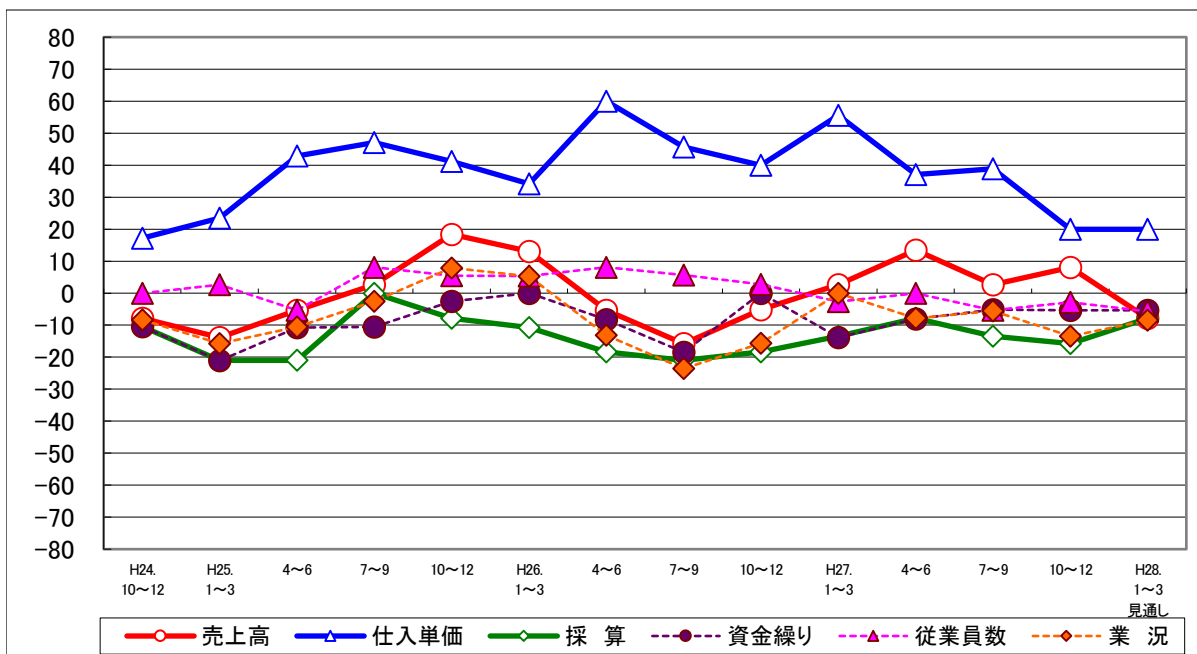
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、前期に比べ、福井県は、売上高（前期▲18.5→今期▲17.0）、採算（前期▲27.6→今期▲26.2）ともに改善しているが、全国は採算（前期▲26.3→今期▲24.9）が改善したものの、売上高（前期▲20.8→今期▲21.9）は悪化している。

その他、今期の新規設備投資については、計画の10.8%に対して実施が16.0%と投資意欲の持ち直しが見られたが、先行き（H28年1－3月期）については、何らかの投資を計画している企業が8.7%にとどまり、低下傾向を示している。

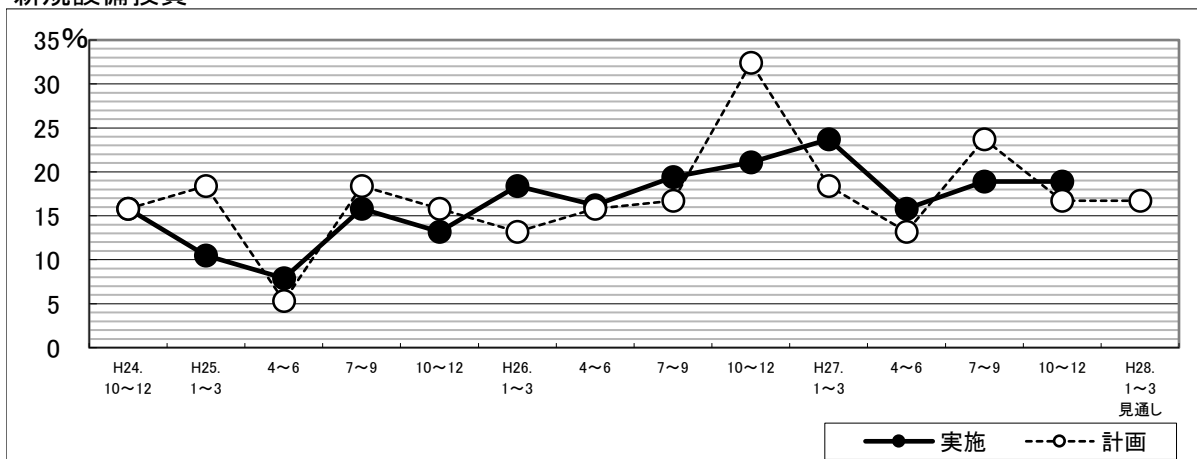
製造業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

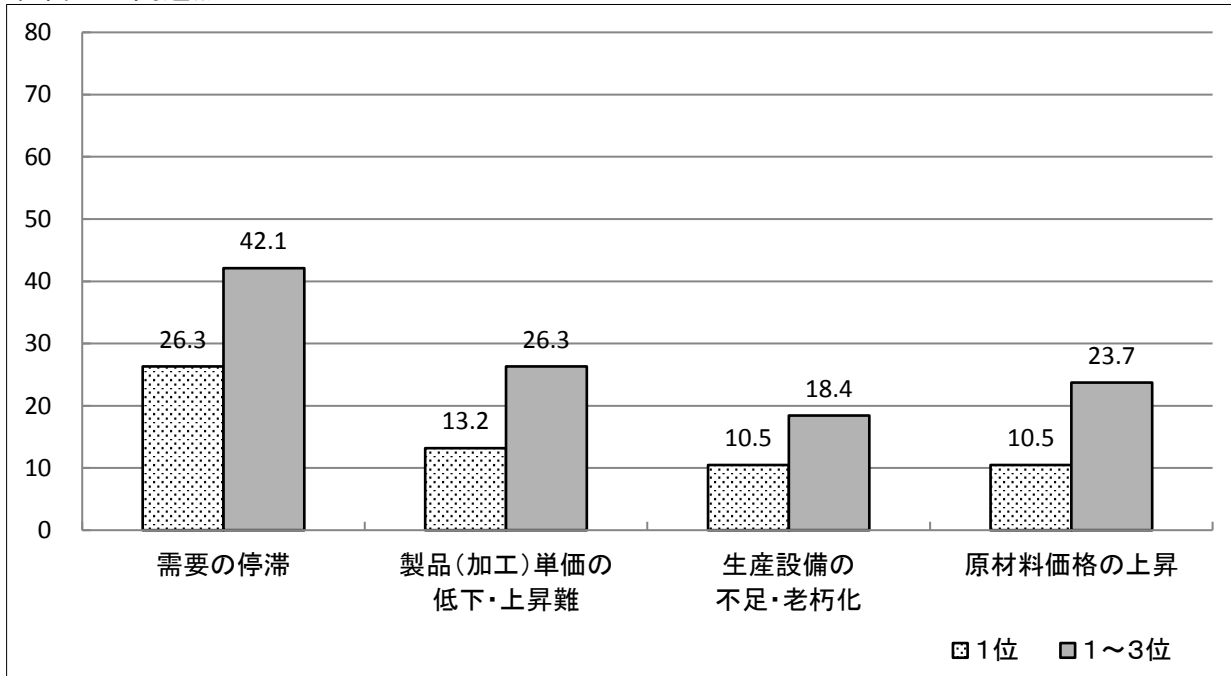
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.10~12	▲ 7.9	17.2	▲ 10.5	▲ 10.5	0.0	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 13.9	23.5	▲ 21.0	▲ 21.1	2.7	▲ 15.8
4~6	▲ 5.4	42.9	▲ 21.0	▲ 10.8	▲ 5.4	▲ 10.6
7~9	2.7	47.1	0.0	▲ 10.6	8.1	▲ 2.6
10~12	18.4	41.2	▲ 7.9	▲ 2.6	5.5	7.9
H26.1~3	13.1	34.2	▲ 10.8	0.0	5.4	5.3
4~6	▲ 5.4	60.0	▲ 18.4	▲ 8.3	8.1	▲ 13.2
7~9	▲ 15.8	45.7	▲ 21.0	▲ 18.5	5.7	▲ 23.6
10~12	▲ 5.2	40.0	▲ 18.4	0.0	2.8	▲ 15.7
H27.1~3	2.7	55.6	▲ 13.5	▲ 13.9	▲ 2.7	0.0
4~6	13.5	37.1	▲ 7.9	▲ 8.1	0.0	▲ 7.9
7~9	2.7	38.9	▲ 13.5	▲ 5.2	▲ 5.4	▲ 5.6
10~12	8.1	20.0	▲ 15.8	▲ 5.4	▲ 2.9	▲ 13.5
H28.1~3見通し	▲ 7.9	20.0	▲ 7.9	▲ 5.4	▲ 5.7	▲ 8.5



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・新幹線金沢開業特需が続き県外問屋からの受注が多く、生産が追いつかない状況。
- ・受注は増加したが、ここ2～3年の業績不振を補うまでには至っておらず、借入困難な状況が続いているため資金繰りに困っている。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、まず地場産業では、繊維が円安効果をもろに受け海外向けに動きがみられたほか、国内向けも横ばいながら非衣料中心に検討しており、全体ではそこそこの動きとなっている。また、眼鏡枠もOEMで受注がみられ輸出の伸びが堅調であるほか、国内需要も円安による輸入品価格の上昇から日本製への回帰がみられ、まずまずの動きとなっている。また、電子部品・デバイスはスマートフォン向けを中心に、化学は合成樹脂や医薬品中心に生産が増加しているほか、輸送機械は自動車変速機部品が高水準で推移。一方、プラスチック製品は建築資材を中心に弱い動きとなっているほか、非鉄金属なども主力の缶材を中心にやや鈍化しており、業種間、企業間での格差が続いている。ただ、総じてみれば主要産業の底堅い動きに押され、全体としては回復基調を維持しているといえよう。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、売上高が前期の2.7→今期8.1へと改善が進んだ。その他、仕入単価（逆指数）（前期38.9→今期20.0）や従業員数（前期▲5.4→今期▲2.9）などでも改善傾向となった。ただ、採算（前期▲13.5→今期▲15.8）、資金繰り（前期▲5.2→今期▲5.4）、業況（前期▲5.6→今期▲13.5）の3項目は悪化しており、いまだ一進一退の状況であることもうかがえる。

また、先行き（H28年1～3月期）については、採算と業況が改善、売上高、従業員数が悪化、仕入単価、資金繰りは横ばいの予測となっており、当分マダラ模様が続くものと思われる。

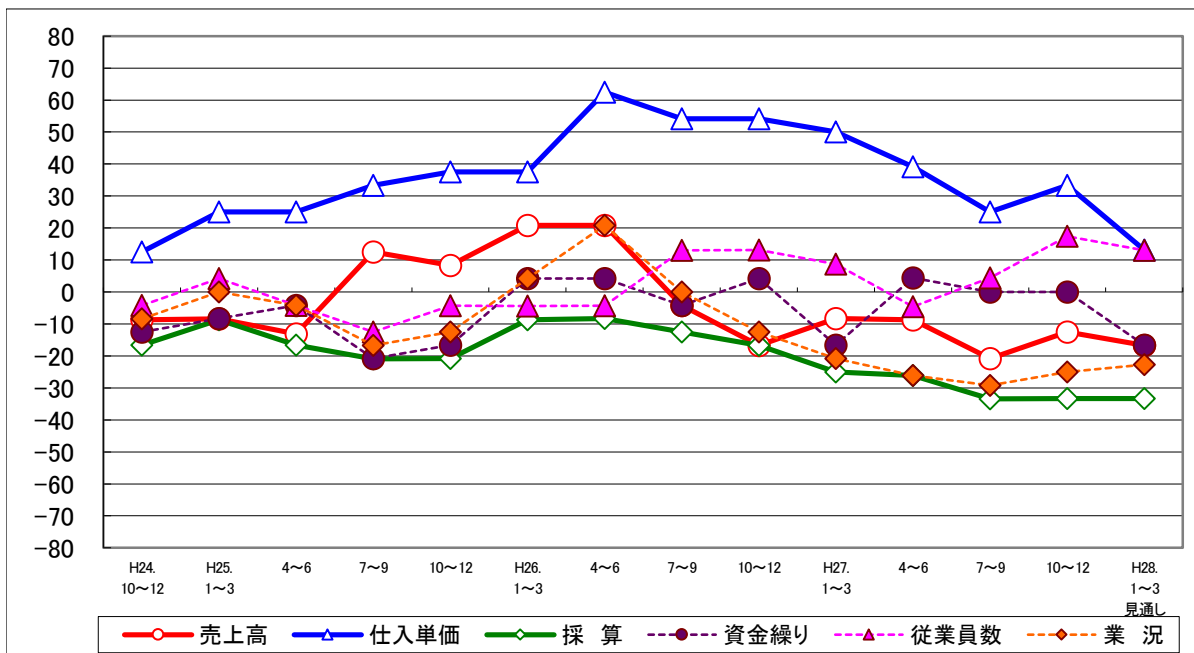
一方、新規設備投資の実施状況については、計画の16.7%に対し実施が18.9%と、まずまずの実施状況を維持。先行きについても、何らかの投資を予定する企業が今期と同水準の16.7%を占め、投資意欲は底堅い。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」（1位に挙げた企業26.3%、1位～3位までに挙げた企業42.1%）や「製品単価の低下・上昇難」（1位に挙げた企業13.2%、1位～3位までに挙げた企業26.3%）への指摘が目立ったほか、個社ごとの声としては「新幹線特需が続き受注が多く、生産が追い付かない」、「受注は増加したが、ここ2～3年の業績不振を補うまでには至らず、借り入れが困難なため資金繰りが苦しい」等といった多様な悩みが挙げられている。

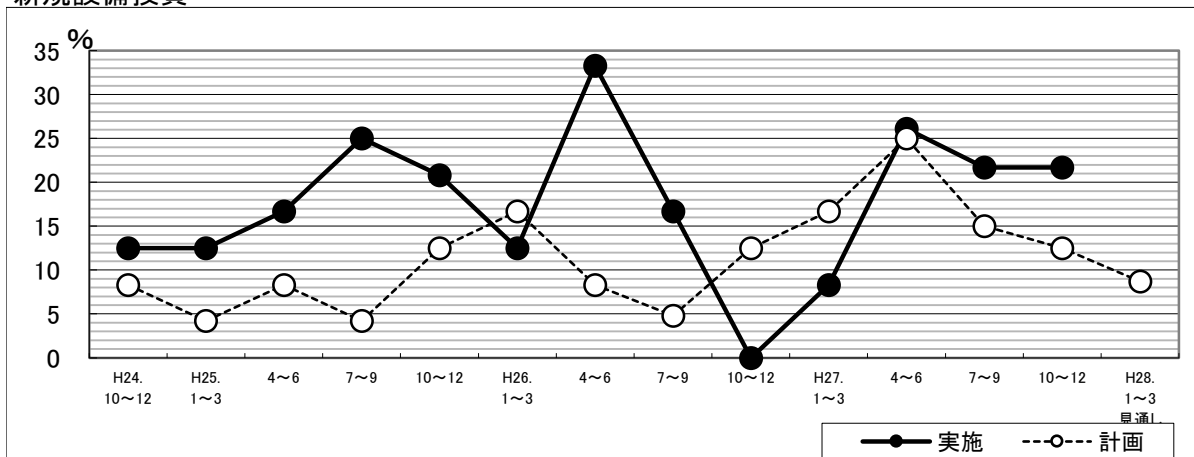
建設業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

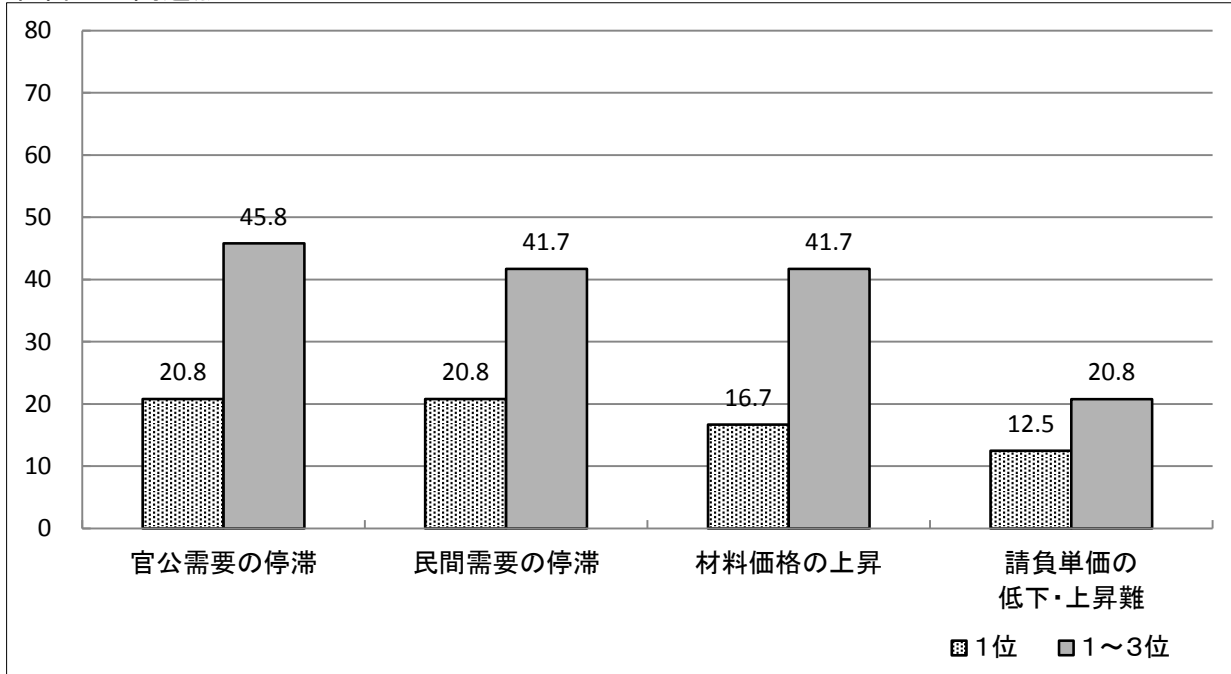
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.10~12	▲ 8.7	12.5	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 8.4	25.0	▲ 8.7	▲ 8.3	4.2	0.0
4~6	▲ 13.1	25.0	▲ 16.6	▲ 4.2	▲ 4.2	▲ 4.2
7~9	12.5	33.3	▲ 20.9	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 16.7
10~12	8.3	37.5	▲ 20.8	▲ 16.6	▲ 4.3	▲ 12.5
H26.1~3	20.8	37.5	▲ 8.7	4.2	▲ 4.4	4.2
4~6	20.8	62.5	▲ 8.3	4.2	▲ 4.3	20.8
7~9	▲ 4.2	54.2	▲ 12.5	▲ 4.2	13.0	0.0
10~12	▲ 16.7	54.2	▲ 16.7	4.2	13.1	▲ 12.5
H27.1~3	▲ 8.3	50.0	▲ 25.0	▲ 16.6	8.7	▲ 20.8
4~6	▲ 8.7	39.1	▲ 26.1	4.4	▲ 4.6	▲ 26.1
7~9	▲ 20.8	25.0	▲ 33.4	0.0	4.4	▲ 29.2
10~12	▲ 12.5	33.3	▲ 33.3	0.0	17.4	▲ 25.0
H28.1~3見通し	▲ 16.7	13.1	▲ 33.3	▲ 16.6	13.0	▲ 22.7



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 公共工事発注量は多いが業種が偏っており、隅々まで仕事が行き渡っていない。
- ・ 公共工事の価格競争が激しく、採算がまったく合わないため入札すらできない状況。

建設業の景況

福井県内における平成27年度（H27年4月－11月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で878億8,600万円の前年同期比7.5%減、発注件数は同2,608件の同14.0%減となり、発注額、件数ともに前年度同期を下回っている。これを主な発注者別でみると、市町関連工事（347億100万円の同12.7%増）で増加したものの、県関連工事（301億500万円の前年同期比20.3%減）が大幅減少しているほか、国家関連工事（128億4,200万円の同9.9%減）での減少がたたり、全体を引き下げていることがわかる。また、住宅投資については、平成27年4月－10月までの7か月累計で、前年同期比13.0%増の2,483戸となった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比6.3%増の1,493戸、貸家が同28.4%増の759戸となっている。

こうした中で今回の景況調査を見ると、仕入単価（逆指数）（前期25.0→今期33.3）で悪化した以外はほぼ改善が進んだ結果となった。ちなみに、項目別では、売上高が前期▲20.8→今期12.5、採算が前期▲33.4→今期▲33.3、従業員数が前期4.4→今期17.4、業況が前期▲29.2→今期▲25.0、資金繰りが前期と同水準の0.0であった。また、先行き（H28年1－3月期）については、仕入単価で改善予測となっている以外、残りの5項目では悪化が4項目、変わらずが1項目となっており、総じて悪化予測となっていることがわかる。

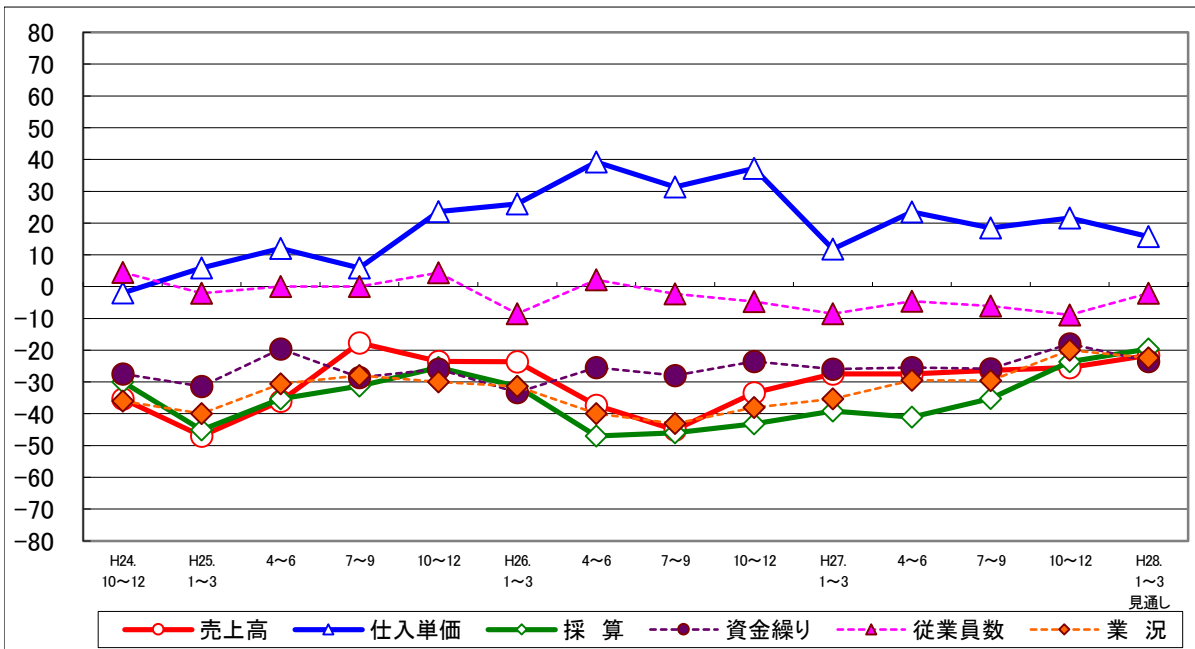
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画した企業12.5%に対し実施した企業が21.7%と順調に推移した。ただ、先行き（H28年1－3月期）については何らかの設備投資を計画している企業が8.7%とやや低下することが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「官公需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト20.8%、1位～3位までに挙げた企業45.8%）や「民間需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト20.8%、1位～3位までに挙げた企業41.7%）、それに「材料費の上昇」（1位に挙げた企業ウエイト16.7%、1位～3位までに挙げた企業41.7%）を指摘する企業が比較的多く、その他公共工事に関して「発注量は多いが偏っている」、「価格競争が厳しい」等を指摘する企業も見られた。

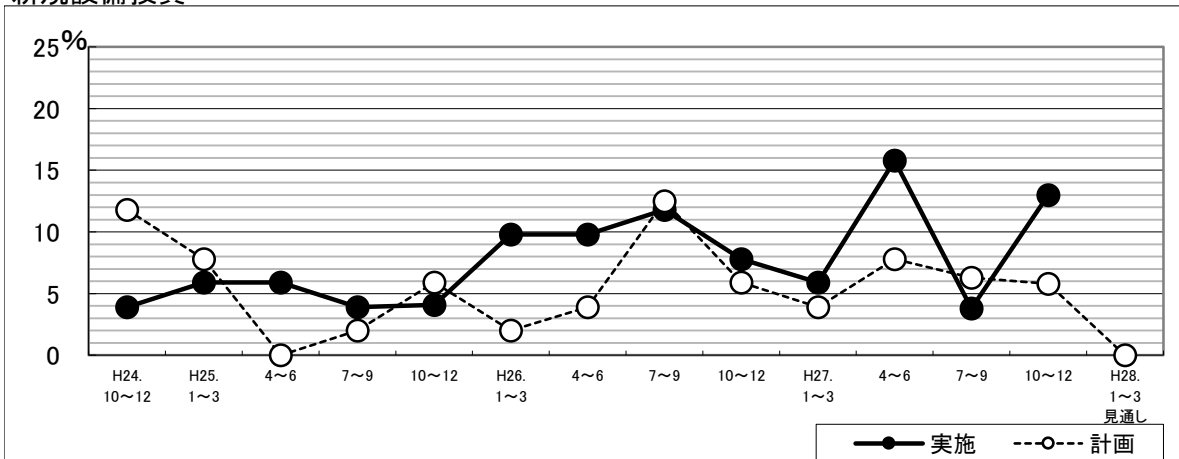
小売業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

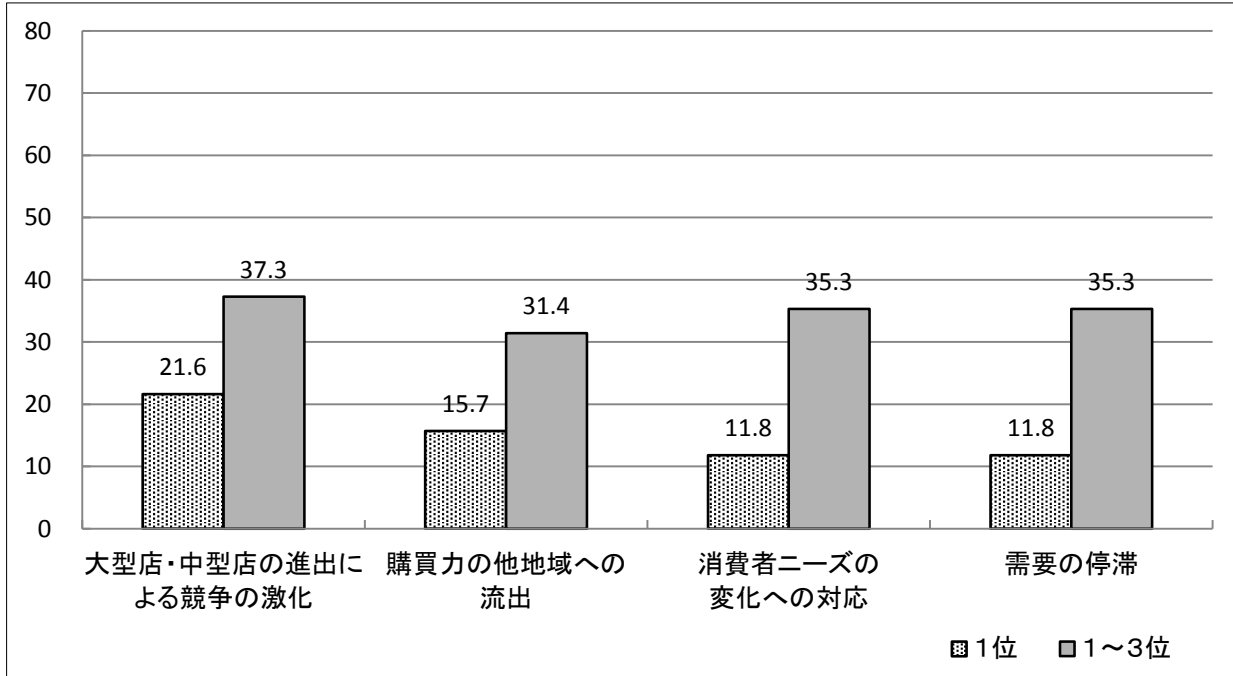
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.10~12	▲ 35.3	▲ 2.0	▲ 30.0	▲ 27.5	4.5	▲ 36.0
H25.1~3	▲ 47.0	5.9	▲ 45.1	▲ 31.4	▲ 2.1	▲ 40.0
4~6	▲ 36.0	12.0	▲ 35.3	▲ 19.6	0.0	▲ 30.6
7~9	▲ 17.7	5.9	▲ 31.3	▲ 28.6	0.0	▲ 28.0
10~12	▲ 23.5	23.6	▲ 25.5	▲ 26.0	4.4	▲ 30.0
H26.1~3	▲ 23.6	26.0	▲ 31.4	▲ 33.3	▲ 8.5	▲ 31.4
4~6	▲ 37.3	39.2	▲ 47.0	▲ 25.5	2.1	▲ 40.0
7~9	▲ 45.1	31.4	▲ 46.0	▲ 28.0	▲ 2.3	▲ 43.1
10~12	▲ 33.4	37.2	▲ 43.2	▲ 23.5	▲ 4.7	▲ 38.0
H27.1~3	▲ 27.5	11.8	▲ 39.2	▲ 26.0	▲ 8.5	▲ 35.3
4~6	▲ 27.5	23.5	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 4.6	▲ 29.5
7~9	▲ 26.4	18.5	▲ 35.2	▲ 25.9	▲ 6.1	▲ 29.6
10~12	▲ 25.5	21.6	▲ 23.6	▲ 18.0	▲ 8.9	▲ 20.0
H28.1~3見通し	▲ 21.6	15.7	▲ 19.6	▲ 23.5	▲ 2.1	▲ 22.4



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・消費の落ち込みを感じる。
- ・賃金が上昇しており、経営を圧迫している。

小売業の景況

近畿経済産業局が毎月公表する大型小売店販売状況（百貨店＋スーパー）から平成27年10月の結果をみると、飲食料品の動きが良く高額品等も好調に推移したことなどから、全店ベースで前年同月比3.7%増の58億2,300万円となり、今年入り、後は3月（消費税増税前の駆け込み需要が発生した月との比較による）を除き概ね前年同月の実績を上回っている。業態別では、大型小売店で高額品に動きが見られるほか食料品も順調に推移している。コンビニエンスストア販売も、カウンターフーズ等に動きが見られ順調に推移、ドラッグストアも品揃えの拡充により飲食料品や日用品に動きが見られたことなどから順調な動きとなっている。家電量販店やホームセンターなども、底堅い動きとなっている。

こうした中、今回の景況調査では、6項目中4項目が改善、残り2項目で悪化傾向となった。ちなみに、項目別の状況を見ると、売上高が前期▲26.4→今期▲25.5、採算が前期▲35.2→今期▲23.6、資金繰りが前期▲25.9→今期▲18.0、業況が前期▲29.6→今期▲20.0で改善。仕入単価（逆指数）が前期18.5→今期21.6、従業員数が前期▲6.1→今期▲8.9とやや悪化している。また、先行き（H28年1-3月期）については、資金繰り、業況を除いて4項目で改善を示している。

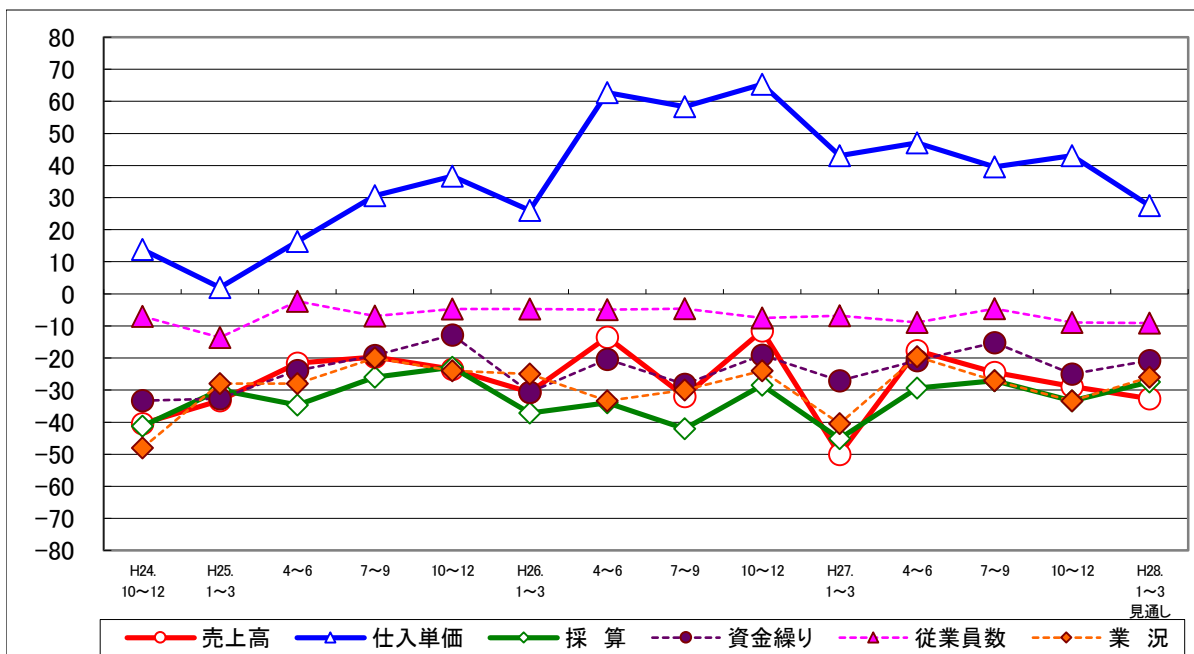
一方、新規設備投資の実施状況については、今期、計画の5.8%に対し実施が13.0%となりまずまずの動きとなった。また、先行き（H28年1-3月期）については投資を考える企業が全く見られず、低調なものとなっている。

最後に、経営上の問題点については、「大型店・中型店の進出による競争激化」（1位に挙げた企業ウエイト21.6%、1位～3位までに挙げた企業37.3%）や「購買力の他地域への流出」（1位に挙げた企業ウエイト15.7%、1位～3位までに挙げた企業31.4%）を指摘する企業が多い。また、「消費ニーズの変化への対応」や「需要の停滞」への指摘も比較的多く、どちらとも1位に挙げた企業ウエイト11.8%、1位～3位までに挙げた企業35.3%を占めている。その他、「消費の落ち込みを感じる」、「賃金上昇により、経営を圧迫している」などの声も聞かれた。

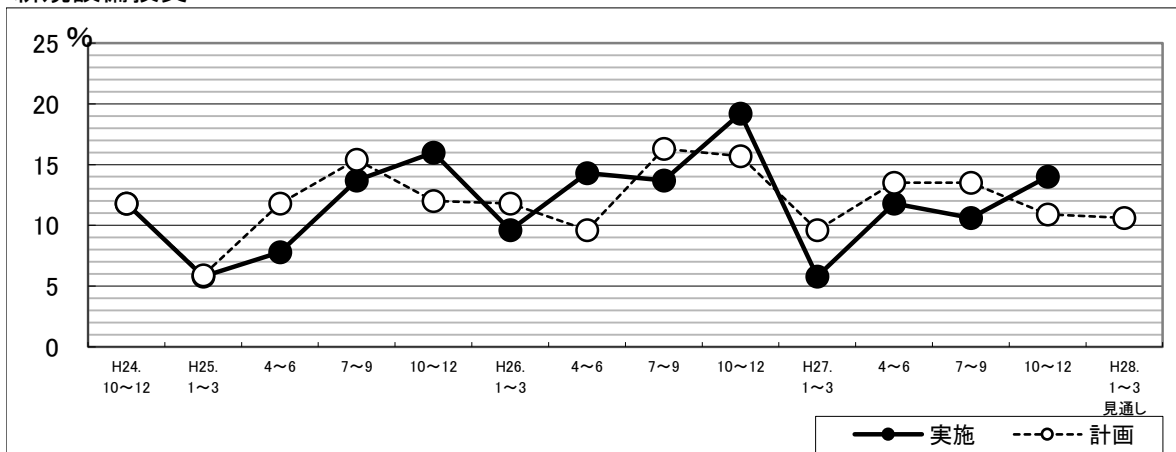
サービス業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

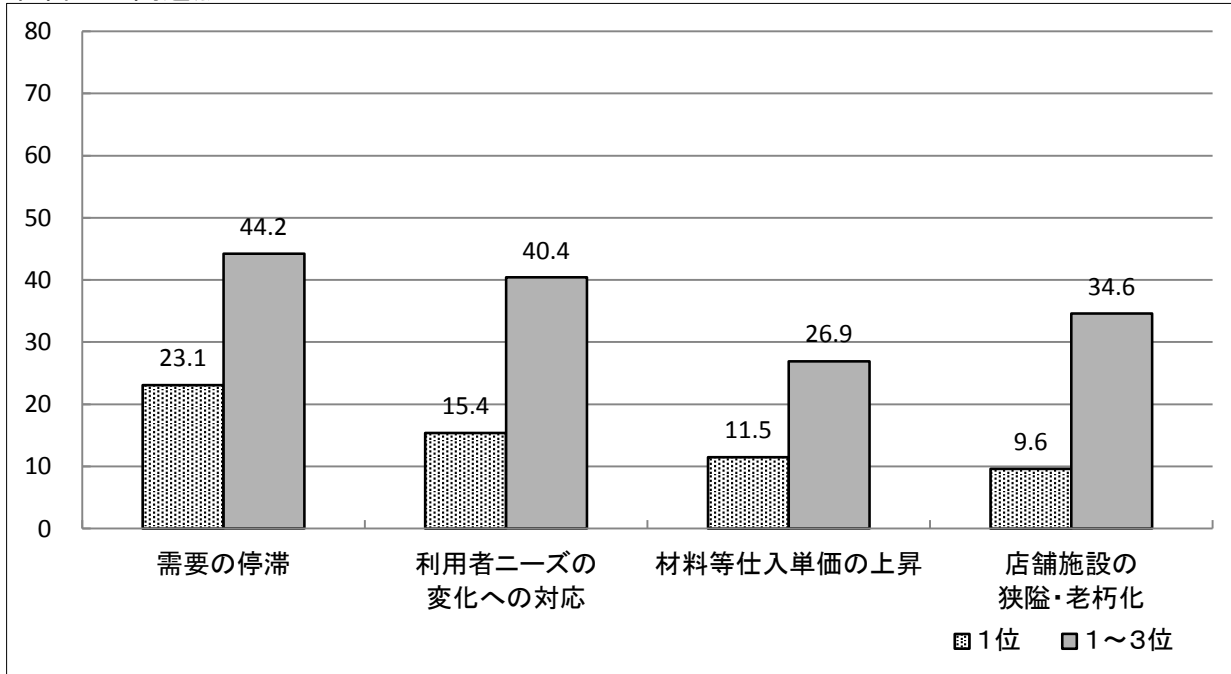
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.10~12	▲ 40.4	13.8	▲ 41.2	▲ 33.3	▲ 7.0	▲ 48.0
H25.1~3	▲ 33.3	2.0	▲ 30.0	▲ 32.7	▲ 13.6	▲ 28.0
4~6	▲ 21.6	16.3	▲ 34.7	▲ 23.9	▲ 2.3	▲ 28.0
7~9	▲ 19.7	30.6	▲ 26.0	▲ 19.2	▲ 6.9	▲ 20.0
10~12	▲ 23.5	36.7	▲ 22.9	▲ 12.8	▲ 4.7	▲ 24.0
H26.1~3	▲ 30.7	26.0	▲ 37.2	▲ 30.7	▲ 4.7	▲ 25.0
4~6	▲ 13.5	62.7	▲ 34.0	▲ 20.4	▲ 4.9	▲ 33.4
7~9	▲ 32.0	58.3	▲ 42.0	▲ 28.2	▲ 4.6	▲ 30.0
10~12	▲ 11.5	65.3	▲ 28.5	▲ 19.1	▲ 7.5	▲ 24.0
H27.1~3	▲ 50.0	43.1	▲ 45.1	▲ 27.1	▲ 6.8	▲ 40.4
4~6	▲ 17.7	47.1	▲ 29.4	▲ 20.8	▲ 8.9	▲ 19.6
7~9	▲ 24.5	39.6	▲ 27.1	▲ 15.2	▲ 4.6	▲ 27.1
10~12	▲ 28.9	43.1	▲ 33.4	▲ 25.0	▲ 8.9	▲ 33.4
H28.1~3見通し	▲ 32.7	27.5	▲ 27.5	▲ 20.8	▲ 9.1	▲ 26.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・大型旅館など北陸新幹線の影響があり好調なせいか、従業員（接客）の確保が難しい。
- ・新規参入業者も増え、お客様を飽きさせないように、新メニューや改装を検討中。
- ・観光シーズン中もそれ以外の時期も、お客様が旅館に落とす金額が減少。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する平成27年10月の第3次産業活動指数（季節調整値、2005年＝100）を見ると、総合では104.0で前月比0.9%の上昇となった。総じてみれば、第3次産業活動は持ち直しの動きとなっている。これを業種別にみると、卸売業（前月比2.2%上昇）、不動産業（同2.7%上昇）、金融業、保険業（同2.0%上昇）、情報通信業（同1.9%上昇）、生活娯楽関連サービス（同1.2%上昇）、小売業（同1.1%上昇）、電気・ガス・熱供給・水道業（同0.5%上昇）が上昇。事業者向け関連サービス（同2.7%低下）、運輸業、郵便業（同0.8%低下）、物品賃貸業（自動車賃貸業を含む）（同0.1%低下）が低下。医療、福祉（同0.0）が横ばいとなっている。

しかし、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目全てが低下し、全国のそれとは異なる動きとなった。ちなみに、項目別では、売上高が前期▲24.5→今期▲28.9、仕入単価（逆指数）が前期39.6→今期43.1、採算が前期▲27.1→今期▲33.4、資金繰りが前期▲15.2→今期▲25.0、従業員数が前期▲4.6→今期▲8.9、業況が前期▲27.1→今期▲33.4となっている。今回の結果からは、恒常的な問題である売り上げの伸び悩み、仕入れ単価の上昇、採算悪化を主因として、業況全体も決して改善されていない同業界の実情がうかがえる。また、先行き（H28年1-3月期）については、売上高、従業員数で悪化予測となっているものの、残り4項目は改善予測となっており、幾分持ち直すことも期待できる。

一方、新規設備投資については、計画10.9%に対し実施が14.0%とまずまずの動きとなった。さらに、先行き（H28年1-3月期）についても10.6%の企業で何らかの設備投資を計画しているなど、今後も横ばいで推移することが期待される。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「需要の停滞」（1位に挙げた企業ウェイト23.1%、1位～3位までに挙げた企業44.2%）及び「利用者ニーズの変化への対応」（1位に挙げた企業ウェイト15.4%、1位～3位までに挙げた企業40.4%）への指摘が目立った他、「材料等仕入れ単価の上昇」や「店舗施設の狭隘・老朽化」を指摘する企業も比較的多く見られた。その他、「北陸新幹線の影響から従業員の確保が難しい」、「観光シーズン中もそれ以外の時期も、お客様が旅館に落とす金額が減少している」などの声も聞かれた。

全国・福井景気動向 平成27年10月～12月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 21.9	32.0	▲ 24.9	▲ 15.1	▲ 3.6	▲ 21.7
	製造業						
	DI値	▲ 13.8	34.1	▲ 19.2	▲ 10.5	0.1	▲ 15.7
	建設業						
	DI値	▲ 11.7	39.9	▲ 18.2	▲ 8.4	▲ 4.4	▲ 11.2
	小売業						
	DI値	▲ 35.4	22.9	▲ 33.1	▲ 21.9	▲ 5.5	▲ 33.8
福井	サービス業						
	DI値	▲ 20.5	34.8	▲ 24.7	▲ 15.5	▲ 3.9	▲ 20.3
	全体						
	DI値	▲ 17.0	29.9	▲ 26.2	▲ 14.5	▲ 3.4	▲ 23.5
	製造業						
	DI値	8.1	20.0	▲ 15.8	▲ 5.4	▲ 2.9	▲ 13.5
	建設業						
	DI値	▲ 12.5	33.3	▲ 33.3	0.0	17.4	▲ 25.0
小売業							
DI値	▲ 25.5	21.6	▲ 23.6	▲ 18.0	▲ 8.9	▲ 20.0	
サービス業							
DI値	▲ 28.9	43.1	▲ 33.4	▲ 25.0	▲ 8.9	▲ 33.4	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。